

新入学おめでとうございます

和寒町では、平成24年4月22名（平成17年4月2日から平成18年4月1日まで）に生まれたかた）の子どもたちが小学校入学を迎えます。

右の表は、平成23年12月1日現在の住民基本台帳をもとに、お名前を掲載しております。

お問い合わせは
教育委員会学校教育係
(電話32-2477) まで



新入学者名簿			計22名			男10名 女12名			(敬称略)		
住所	氏名	保護者	住所	氏名	保護者	住所	氏名	保護者	住所	氏名	保護者
中和	いしだ りんか 石田 凜花	つよし 剛	中和	にしがわ ゆうき 西川 優樹	なおや 直哉	三笠	かはし ゆうり 林 悠莉	りゅういち 隆一	三笠	ふくかわ りょうせい 福川 凌正	たくえつ 拓悦
三笠	かとう けいた 加藤 慶汰	としお 敏雄	三笠	まさき かつえ 牧 楓	とある 亨	三笠	さいとう くるみ 齊藤 くるみ	ますみ 真澄	三笠	まさき べに 佐々木 紅	じゅん 淳
三笠	かわにし とあ 川西 永愛	けんご 健吾	中和	まつもと あおい 松本 葵	まなぶ 学	大成	すずき はる 鈴木 はる	けんいちろう 健一郎	日ノ出	みやざき ゆうま 宮崎 悠雅	かずひろ 和博
三笠	たかはし いつき 高橋 樹	はるき 春貴	大成	たづみ ゆな 田住 結菜	しょうじ 正二	松岡	たむら こはる 田淵 心晴	ともひで 友英	三笠	むらかみ ひると 村上 楓人	たかゆき 孝之
日ノ出	たづみ ゆな 田住 結菜	しょうじ 正二	大成	たむら こはる 田淵 心晴	ともひで 友英	日ノ出	なるまた せいご 垂又 征吾	しゅういち 修一	三笠	めぐる ひろと 目黒 大翔	のりつぐ 紀嗣
大成	たむら こはる 田淵 心晴	ともひで 友英	北町	なげやす こうた 永易 幸太	たかゆき 孝行	大成	なげやす こうた 永易 幸太	たかゆき 孝行	三笠	もろと りな 諸戸 里菜	たかし 孝史
北町	なるまた せいご 垂又 征吾	しゅういち 修一	三笠	やまなか しょうたろう 山中 尚太郎	くにお 邦夫	東町	わだ 和田ゆきの	ともみ 智己	三笠	やまなか しょうたろう 山中 尚太郎	くにお 邦夫
三笠	なげやす こうた 永易 幸太	たかゆき 孝行	東町	わだ 和田ゆきの	ともみ 智己						

健康メモ

子どもの発熱とケア

子どもが風邪をひくなど体調を崩しやすい季節です。熱を出したときの対応について考えてみましょう。

【熱の原因は？】

①風邪などのウイルスの感染
発熱はからだの防御反応のひとつです。かぜなどのウイルスは熱に弱く、低温だと活発に動くという性質があるため、からだはウイルスの増殖を抑制するために熱を発生させるのです。熱を出すことからは病気を闘っているのです。

②脱水になった時

高熱、下痢、嘔吐によって水分が失われ、さらに口から水分を飲むことが少ないと脱水症状を起します。赤ちゃんと大人に比べると水分を多量に必要とします。汗の分の水分補給を忘れずに。

③熱の放散がうまくいかない時
気温や湿度が高い時、着せ過ぎ、暖め過ぎなどで熱の放散が妨げられると熱が体内にこもって体温が上がります。



【子どもの状態や機嫌を見る】

赤ちゃんはおともとも体温が高いです。個人差もあり、37度5分以上を「熱がある」と考えますが、普段から使い慣れた体温計で同じ時間帯に体温を測って「平熱」を知り、平熱からどのくらい上がったか見ることも大切です。また、数字に加えて子どもの状態や機嫌をみることも大事です。

着せすぎや水分不足、幼児だと興奮して走り回ったりすると体温が上がることもあるので、そうしたことがないか確認することも必要です。

【発熱時の家庭でのケア】

- ①水分補給
脱水症状を防ぐため、お茶、水、イオン水などいつも以上に水分補給を心がける。
- ②食事
離乳食は一段階戻して水分の多いものにする。幼児は、おかゆやくたくたに煮込んだうどんなど消化のよいものを。
- ③入浴
熱があるときは体力を消耗し、水分を失うので控えた方がよい。蒸しタオルでからだを拭いてあげれば、さっぱりするし、気化熱で体を冷ますことができる。
- ④室温・湿度など
室温20℃、湿度60%を目安に快適な環境で。
- ⑤衣類
熱の上がりかけでゾクゾクする時は、多めに着せたりして暖かくする。
- ⑥体を冷やす
冷やして体から熱を逃すことが大切です。アイスノンなどでひたいや首・脇の下などを冷やしましょう。
- ⑦気持ちのケア
発熱の不快感や苦痛は子どもを不安にさせます。子どもの傍について「大丈夫？」と声をかけたり、よく見るところにいて布団を直したり、子どもが守られている安心感を得られるように接しましょう。この安心感が病気から回復する力にもなります。
- ⑧熱性けいれん
脳の調整機能が未熟であるため、子どもは熱性けいれんを起すことがあります。発作が起きても、落ち着いて行動し、発作の時間やけいれんの様子を観察し、その後医師の診察を受けることをお勧めします。

(保健師 辻 留美子)

